

令和5年度 主要事業の概要



呉市の概要

明治22年の海軍鎮守府開庁を機に本格的な市街地の形成が進められた呉市は、明治35年10月1日に、全国で55番目に市制を施行し、最盛期の昭和18年には人口40万人を超える日本一であり世界でも有数の海軍工廠を擁するまちに発展しました。

終戦による海軍の解体とともに、人口も15万人に激減しましたが、昭和25年の平和産業港湾都市への再生を目指す「旧軍港市転換法」の制定により、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ産業等の企業が進出し、瀬戸内有効の臨海工業地帯としての基盤を確立し、広島県の産業を牽引してきました。

呉市では、令和3年度(2021年度)から令和2年度(2030年度)までの市政運営の根幹となる計画として、また、将来の呉市の姿を見据えた新しいまちづくりの指針として第5次呉市長期総合計画を策定しました。平成30年7月豪雨災害からの着実で力強い復興を推し進めるだけでなく、呉市ならではの特性と最先端のICTなどを融合させた取組を進めながら、誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～「くれ」を実現していきます。

呉市のプロフィール

| | |
|---------------------|-----------------------|
| 人口(R5.3.31) | 208,096人 |
| 世帯数(R5.3.31) | 106,337世帯 |
| 面積(R4.10.1) | 352.83km ² |
| 海岸線延長(R4.3.31) | 336.9km |
| 一般会計当初予算額(R5年度) | 106,283百万円 |
| 事業所数(H28.6.1)※公務を除く | 9,534事業所 |
| 農業産出額(R3)(推定値) | 396千万円 |
| 工業製成品出荷額等(R2) | 1,120,388百万円 |
| 商業年間商品販売額(H28) | 369,092百万円 |

瀬戸内海国立公園

| | |
|----------|----------|
| 陸地部分全地面積 | 66,934ha |
| (内)広島県部分 | 10,685ha |
| (内)呉市部分 | 4,221ha |

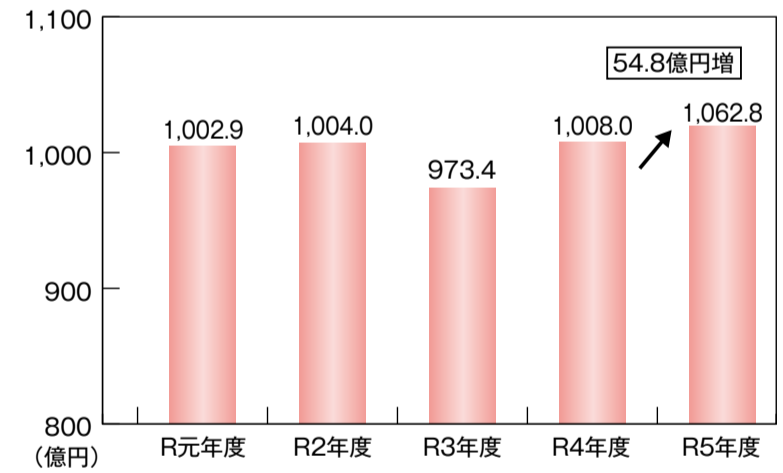
地域の主な変遷

| 年月日 | 事項 | 面積(km ²) |
|------------|------------------------------------|----------------------|
| 明治35年10月1日 | 安芸郡和庄町、荏山田村、宮原村、二川町を合併し呉市制を施行 | 23.14 |
| 昭和3年4月1日 | 安芸郡吉浦町、誓固屋町、賀茂郡阿賀町を呉市に編入 | 48.65 |
| 16年4月21日 | 賀茂郡広村、仁方町を呉市に編入 | 91.80 |
| 31年10月1日 | 安芸郡天応町、昭和村、賀茂郡郷原村を呉市に編入 | 143.95 |
| 平成15年4月1日 | 安芸郡下蒲刈町を呉市に編入 | 155.08 |
| 16年4月1日 | 豊田郡川尻町を呉市に編入 | 171.83 |
| 17年3月20日 | 安芸郡首戸町、倉橋町、蒲刈町、豊田郡安浦町、豊浜町、豊町を呉市に編入 | 353.18 (合併当時) |

一般会計予算の特徴

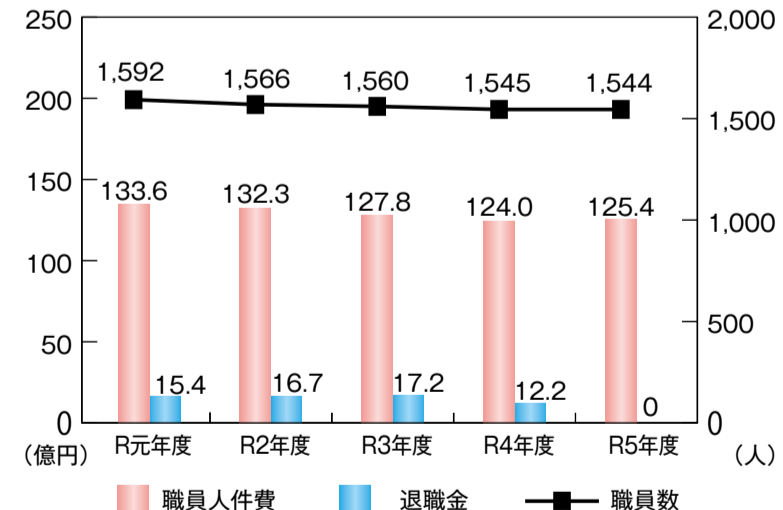
(1) 予算規模

道路や公園の照明施設のLED化改修が完了したことにより土木費が減少した一方、こども医療費助成の県内トップへの拡大、小・中学校の空調設備整備、し尿前処理施設整備などの実施により、令和4年度当初予算と比べて増となっています。



(2) 職員人件費

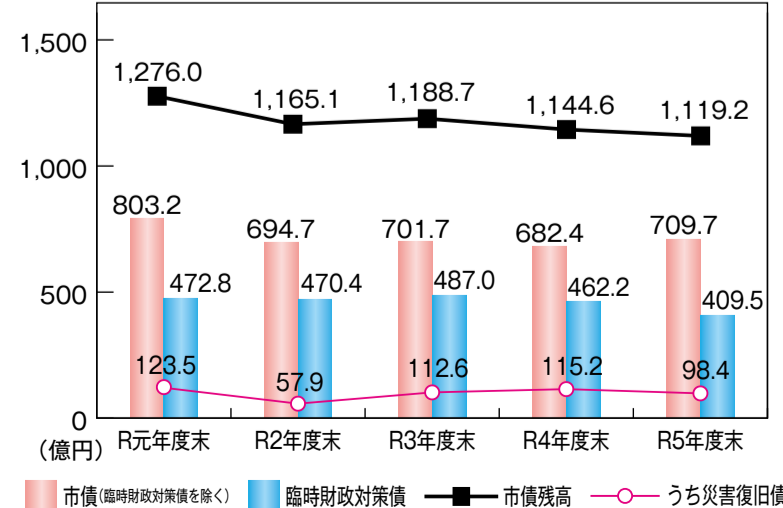
行財政改革の着実な実践により、職員数は年々減少しており、令和5年度も1人の減となっています。職員人件費は、人事院勧告に基づき、令和3年12月賞与の減額措置を令和4年度で実施した影響もあり、令和4年度と比べて増となっています(1.4億円増(退職手当は除く))。また、定年延長実施に伴い、退職金に係る令和5年度当初予算は0円となっています。



*金額は当初予算ベース、職員数は各年度の4月1日時点での常勤職員の数である。

(3) 市債残高

投資的経費の計画的な執行や、臨時財政対策債の発行額の減少により、前年度末から市債残高は減少(25.4億円)しています。



*市債(臨時財政対策債除く)、臨時財政対策債、市債残高、うち災害復興債

第5次呉市長期総合計画

将来都市像

呉市は、豊かな自然に囲まれ、海軍工廠の技術等を生かしたもののづくり産業や豊富な医療資源などを有する多様性に富んだ都市です。

しかし、近年は人口減少、少子高齢化が進行する中で、情報通信等の技術の急速な進歩や自然災害の脅威への対応、さらには新型コロナウイルス感染症の克服など多様な課題が山積み、大きな転換期を迎えています。

このような時代において、私たちは、一人ひとりが危機感を持ちながら主役となって変化する社会や課題に正面から向き合い、柔軟に対応しながら、呉市のあるべき未来の姿に向けた取組を推進します。



- 質の高い生活が実現されるスマートシティ^{*}「くれ」
- 新たなチャレンジでビジネスチャンスを生み育てる「くれ」
- 都会にはない心地よい暮らしが人々を惹きつける「くれ」
- 災害に屈しない強靱なまち「くれ」
- SDGs^{**}を通して豊かな未来を創る「くれ」

これらの未来の呉市の姿を市民や企業などと共有し、その実現に向けた取組を進めることで、豊かで安心して生活が実現し、全ての人々が住みたい、住み続けたい、行ってみたいと思う、人を惹きつける魅力的なまちを目指して、次のとおり将来都市像を定めます。

誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち「くれ」
～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～

*1 都市や地域が抱える様々な課題に対し、AIなどの新技術を活用して計画、整備、管理・運営等のマネジメントが行われる持続可能な都市・地区のこと。
*2 エス・ディー・ジーズ Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標。

呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)リニューアル

呉市海事歴史科学館は、明治以降の日本の近代化の歴史そのものである「呉の歴史」と、平和の大切さ、科学技術の素晴らしさを伝える博物館として、平成17年4月に開館しました。現在、開館以来の観覧者数が1,500万人を超え、国内外から多くの方に来館していただいている施設となっています。しかし、当初の想定を上回る来館者数に加え、平成17年の開館以来、大規模なリニューアルを実施していません。施設・設備の経年劣化や、展示に最近の調査研究の成果が反映されていないなどの課題が生じているため、施設と展示の大規模リニューアルを実施します。

リニューアル基本方針

- 観覧環境の充実
- 収容・展示機能の充実
- デジタル技術の活用
- 呉の歴史から産業技術・科学技術の素晴らしさとともに平和の大切さを伝える
- 社会的・地域的課題に対応する博物館

施設改修

- ミュージアムショップの建設
混雑の解消や利便性の向上を目指し、エントランス内にあるミュージアムショップを入口前の広場に移動します。
- 空調設備改修
換気や空調能力を増強するとともに、省エネルギー等の観点から効率の良い機器に更新します。
- トイレ改修
トイレスペースを増設するとともに、トイレ内の通路を拡張して快適化を図ります。
- 既存不適格部分の解消
エレベーター、エスカレーター、耐震天井への改修等を行います。
- カーボンニュートラルへの対応
照明のLED化、太陽光発電設備の改修を行います。
- 経年劣化施設の改修ほか

展示改修

- 1階「呉の歴史」展示室 一部更新
- 3階「科学技術」展示室(仮) ※全面改修

1階「呉の歴史」展示室
現代の呉に至る連綿した歴史を充実させ、解説テキストをわかりやすいものに刷新します。
○デジタル技術の活用
デジタル技術を用いて、戦後復興の展示コンテンツの充実を図ります。
○展示環境の向上
電子機器を一新し、照明のLED化やユニバーサルデザインに配慮した展示ケースに更新します。

3階「科学技術」展示室(仮)
ものづくりの呉の歴史
海軍工廠及び海軍工廠で培われた技術、現在に引き継がれている技術及び新たに加わった技術について学ぶという観点から、関連する実物資料を展示します。
○デジタル技術の活用
デジタル技術を活用したものづくりの工程やシミュレーションを体験できるコーナーを設置するとともに、技術の原理を学ぶことができる体験装置を設置します。

スケジュール(予定)
令和5年度 実施設計業務 令和6年度 リニューアル工事
(令和元年度: 内部検討委員会 令和2年度: 外部検討委員会 令和3年度: 基本計画策定 令和4年度: 基本設計業務)

呉駅周辺地域総合開発に向けて

国道、鉄道駅、港の3つの交通モードが集積する立地特性を活かし、呉駅周辺地域において、路線バス、次世代モビリティ、鉄道、更には、旅客船やクルーズ船が集積し、世界とつながる次世代型総合交通拠点の形成に取り組みます。

呉駅周辺地域を起点に、地方都市のモデルとして、次世代モビリティ、AIなどの先端技術を先駆的に実装し、すべてのひと・モノ・情報がつながる未来社会[Society5.0]の実現に向け、超スマートで、かつ、持続可能な課題解決先進都市を目指します。

交通まちづくりとスマートシティの発信拠点の形成

- ビジョン1 交通まちづくりの起点となる「次世代型」総合交通拠点の形成
- ビジョン2 市民と来訪者が憩い、賑わい、快適に移動できる駅前空間の創出
- ビジョン3 災害時にも頼りになる防災対応型交通拠点の形成
- ビジョン4 歩きたくなる・住みたくなる「心地よく過ごせるまちなか」の形成
- ビジョン5 「公・民・学」一体で課題を解決し続けるまちづくり

5年後の目指す姿

- 総合交通結節点の形成
バス・タクシー・自家用車と歩行者を分離した駅前広場の整備
- デッキ空間の創出と先進的な活用
1階の交通ターミナルと一体となる2階レベルのデッキ広場の整備
・賑わい創出につながる広場空間の利活用

呉駅交通ターミナル整備事業

[R3.4月 国語読書として事業化]
国のバスプロジェクトの一環として、道・港・駅・まちが一体となる次世代型総合交通拠点の整備(実施事業者が作成した整備計画書抜粋)

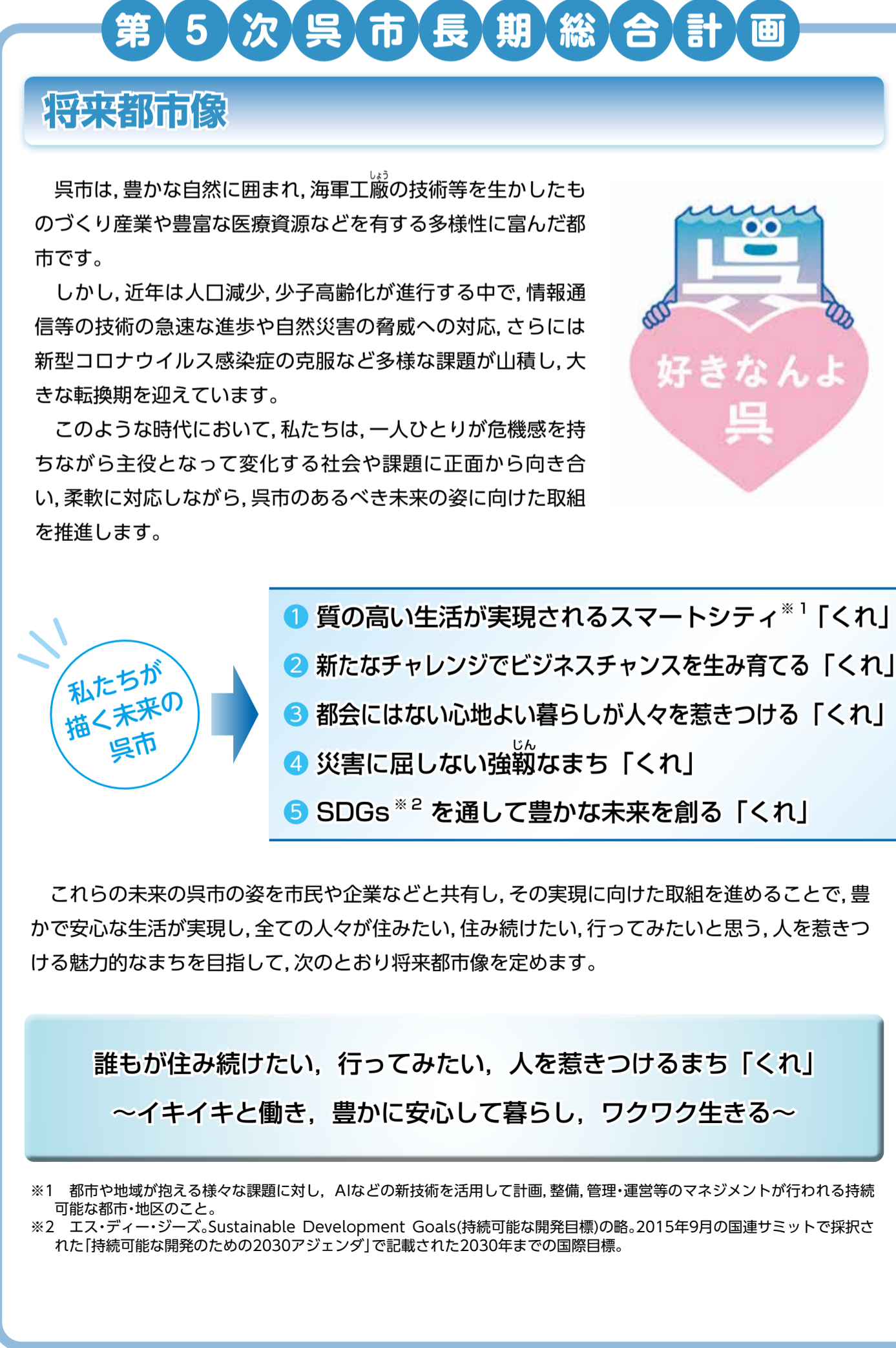
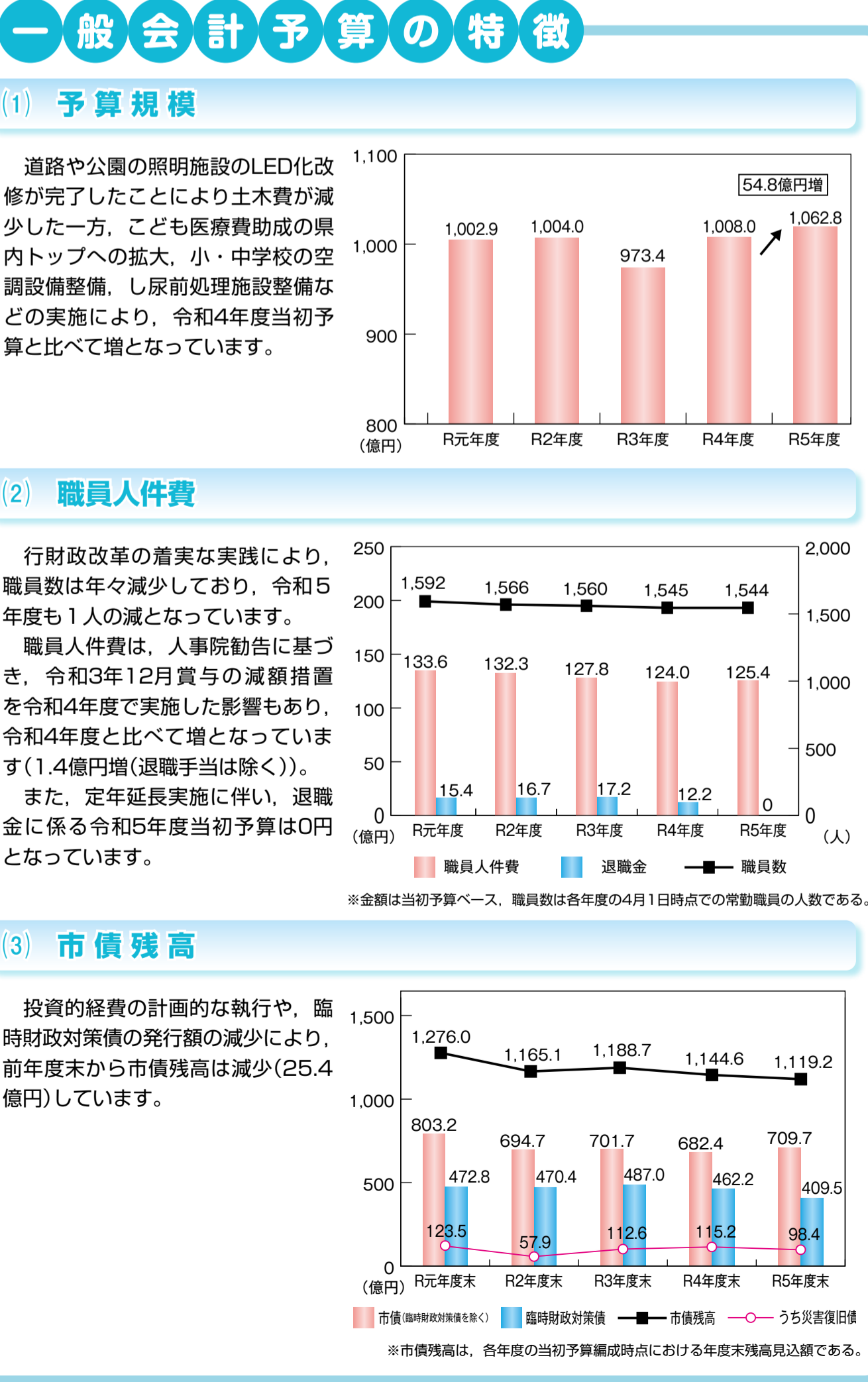
- 複合施設の整備による賑わいとまちなか居住の推進
・旧そごう呉店跡地を活用した駅前の賑わいを創出する複合施設の整備
- 呉駅の防災拠点機能の整備
・災害時活動拠点の機能整備
- 呉駅の南北一体の玄関口の形成
・JR呉駅の橋上駅舎
- アーバンデザインセンターによる「公・民・学」が連携したまちづくり
・アーバンデザインセンターの設立

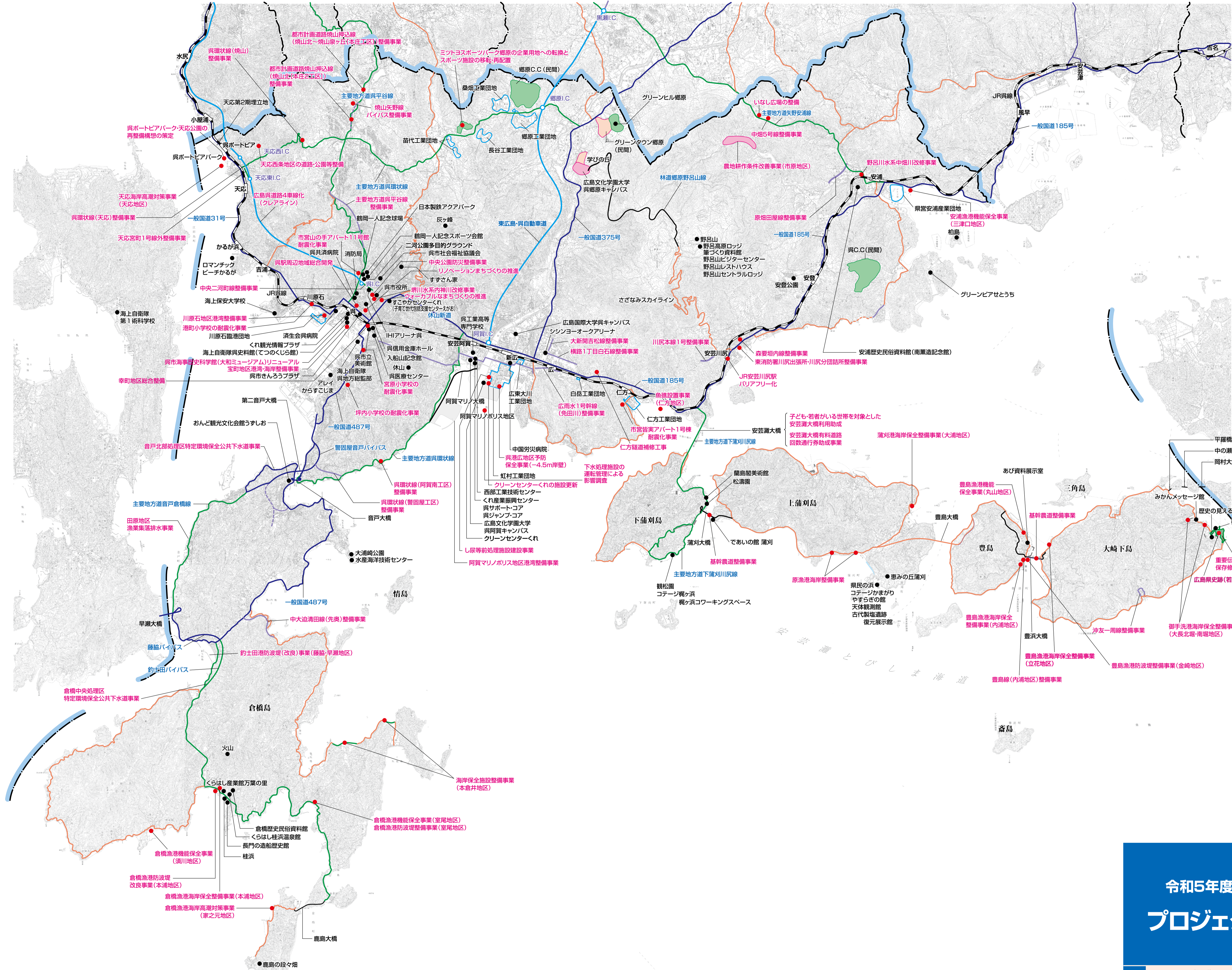
5〜15年後の目指す姿

- デッキでの次世代モビリティの運行
・デッキ上に小型の次世代モビリティが乗り入れることで、地域内におけるデッキ広場の拠点性を強化
- 多様な次世代モビリティによる交通まちづくりのイメージ

15年後以降の目指す姿

- 呉市全域における未来志向の「交通まちづくり」を軸としたスマートシティの実現
・都市間アクセス、市内移動の両面で、多様なニーズに応える次世代モビリティを導入





令和5年度 呉市 プロジェクトマップ

| | |
|-------|----------|
| 一般国道 | 自動車専用道 |
| 主要地方道 | 臨港道路・農道等 |
| 一般県道 | 事業中 |

凡例